

ふらっとふらわーず ニュース

- 季節の花：・レンゲ
・ジンチョウゲ
- コラム：西洋庭園の種類
- 情報：花のイベント

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2017春号：第18号
- 連絡先：042-682-2835
- 編集委員：内田信子

季節の花

★【レンゲソウ】

マメ科 / レンゲ属

かつては、春になると田んぼがレンゲソウのピンクの花で埋め尽くされ、春の風物詩となっていました。花かんむりを作った方もいらっしやるのではないのでしょうか。この花が一面に咲いている姿を遠くから見ると、紫色の雲が低い所で漂っているように見えることから、「紫雲英(ゲンゲ)」という和名が付いたそうです。草丈は10〜30cmほどに生え、地面を這うように広がっていきます。そして春になると蝶に似た花が輪になって茎先につき、白詰草に似た姿になります。この花が蓮(ハス)の花と似ていることにちなんで蓮華草(レンゲソウ)と呼ばれるようになりました。

レンゲソウは厳密には二年草です。二年草は種まきから最初の一年は、茎葉や根を作って冬に休眠し、二年目の春〜夏にかけて花を咲かせて枯れる草花を指します。また期間是一年でも、秋にまいて翌春に花を咲かせる植物を二年草と呼ぶこともあります。レンゲソウは、中国を原産とし、利尿や解熱作用のある民間薬として古くから利用され、ハチミツのための蜜を作る植物(蜜源植物)としても広く利用されています。また、畑にあら

はじめまいておく「緑肥」として栽培されることもあります。同じマメ科のクローバーも緑肥として利用されます。「レンゲ農法」とは、秋に田んぼにレンゲソウの種をまき、冬の間育て、春に花を咲かせたレンゲソウを、土にすきこんで肥料とする農法です。レンゲソウは空気中の窒素を根に取りこんで貯め込むので、稲が必要とする窒素成分を含んだ元肥となり、土壌に力がつき強い稲を作ります。レンゲソウの根には「根粒」というような「根粒」がついていて、その中には「根粒菌」という細菌がいます。それが空気中の窒素を直接栄養にしてくれます。根粒菌は、植物が吸収できる形に変換した窒素を作り出せるので、根っこを通して植物へ窒素を送り、植物からは光合成で得た養分をもらっています。窒素は、植物が生きていくために不可欠なものですが、土の中の空気量は少なく、当然窒素も足りていません。根粒菌と共存する植物は、窒素成分には困らないということです。

花言葉

「心が和らぐ」「私の苦しみを和らげる」(花言葉辞典)

(参考：ホルティ、つづき農場)



★【ジンチョウゲ】

ジンチョウゲ科 / ジンチョウゲ属

ジンチョウゲは、香りのよい花を早春に咲かせます。中国南部からマラヤを原産とする常緑性の低木です。漢字では「沈丁花」と書き、花の香りが沈香(香料の一種)、花姿が丁字に似ているところに由来するとされます。外側が紅紫色で内側が純白の肉厚な花は、濃い緑色の葉とよく合います。沈丁花は花びらを持たない花で、十字型で花びらに見えるものは肉厚の「がく」です。「がく」は内側が白、外側は紅紫色になります。室町時代以前に日本に渡来したといわれ、日本で栽培される株はほとんど結実しません。「がく」の外側が白くなるシロバナジンチョウゲ、「がく」の外側が淡い紅色のウスイロジンチョウゲ、葉に黄色い縁取りが入るフクリンジンチョウゲ、シロバナフクリンジンチョウゲなどがあります。

栽培環境：庭植えは西日の当たらない半日陰を選んで、根を切らずに植えつけます。日陰では花が咲きにくくなります。有機質に富んだ、水はけと水もちのよい、弱酸性の土壌を好みます。水やり：極端な乾燥を嫌います。新芽が成長する春や、高温になる夏に乾燥させないよう乾いたら十分に。肥料：春に伸びる新芽を健全に生育させるため、花後の4月下旬と、株が充実する9月に緩効性化成肥料を。寒肥として有機質肥料を1月から2月に。ふやし方：さし木で。前年に伸びた枝を利用して4月に行うか、その年に伸びた枝を利用して7月から8月に。

花言葉：「栄光」「永遠」「歓迎」(花言葉辞典)

(参考：ヤサシイエンゲイ、趣味の園芸)



コラム 西洋庭園の種類

「ガーデン」

ガーデンとは、「通常は園芸、造園全般を意味する言葉であるが、現在では西洋式の手法、特にイギリス式庭園の手法を取入れた園芸から、植物を植えたり、ふやしたり、手入れをすることも含めガーデンという。(コトバンク)。西洋庭園は主に「イギリス式」「フランス式」「イタリア式」の3種類があります。現在確認できる最も古い庭園とは、紀元前14世紀ごろに言われている、エジプトの墓から木や花が描かれた壁画が発掘されました。その後、紀元前2世紀頃には、古代ローマ帝国で庭園が存在し、アジアにも広まっています。

「イタリア式庭園」は、ルネサンス期に、建築物を重視して、別荘(ヴィラ)と庭を一体化させ、通路に沿って植物を配置し、常緑樹を大きな茂みとして用いるのが特徴の庭園です。



「フランス式庭園」は左右対称に草花や造形物を組み合わせる幾何学的なデザインが特徴で、ヴェルサイユ宮殿に代表される庭園形式です。17世紀後半までは、イタリア式庭園の影響から、建築家が建築物をとりまく庭園まで設計し、あくまでも建築物の延長線上に庭園は存在していました。このような建築家と造園家の上下関係を壊し、全く新しい庭園文化を作りあげました。フランス式庭園の最も重要なポイントが、壮大な見晴らしにあります。

「イギリス式庭園」(イングリッシュガーデン)は、人為的なフランス式庭園と対比関係にあり、自然風景を求める思想から生まれたもので、これは日本庭園と共通の様式と言えます。イギリスでも17世紀後半にフランス式庭園が大流行していましたが、18世紀に入ると、人為的なものを排除する傾向が出てきたこともあり、人工的な庭園への批判は広まっています。自然のままの姿を楽しむための様式として、自然回帰を目指したイギリス式庭園が発展していきました。そして、19世紀後半になると、田舎家風庭園が流行しました。木は刈り込むことなく自然に枝を伸ばし、池なども自然にあるかのように風景を作り出していきます。イギリス式庭園を作るポイントは、「植物の自然な姿をそのまま生かす」ということです。不規則に植物を植えること。野に咲く花のように、位置や種類はかまいません。通路は石や木の板、ベンチは木製のものを使うなど、人工物を置くときは自然の素材で作られたものを選びます。「ボーダーガーデン」は、高さの違う植物を使い、手前から奥にかけて高くなっていくように植える方法です。これによって奥行きが出て、庭が広く感じられるようになります。「コテージガーデン」は自然のままの草花の美しさを生かしたガーデンスタイルのことです。カントリーガーデンは同義語です。イギリス式庭園の、どこかの田舎を思わせる素朴な雰囲気は、安らぎを感じさせてくれます。

(参考：ホームメイト植物園ガーデンング検索、ホルティ、ウィキペディア、エクスガーデン部)



情報

(事前に確認ください)

- 第8回世界盆栽大会 in さいたま
4月28日(金)〜30日(日)さいたまスーパーアリーナ
フラーフェスティバル
- 3月25日(土)〜5月21日(日) 国営昭和記念公園
フラーフェスティバル
- 第27回2017 日本フラー&ガーデンショウ
4月1日(土)〜4月3日(月) パシフィコ横浜
フラーフェスティバル由木
- 4月29日(土)・4月30日(日) 京王南大沢駅周辺